EMD Magazine
Electronics Music Distribution Magazine

【EMD.GR.JP 掲載のニュース】（2 月 25 日〜3 月 9 日分）

Yahoo! BB、Reach DSL の提供を開始

Yahoo! BB は、NTT 収容局からの距離や回線品質などの問題で充分な通信性能が発揮できないユーザーに対して、2002 年 3 月 1 日より正式に Reach DSL を使用した接続サービスを提供していることを公表した。

Reach DSL は、通常の電話回線に使われている銅線を用いて高速なデジタルデータ通信を実現する伝送技術の一種。使用する周波数帯域を低くして最大速度を抑える代わりに、9km 以上（理論値）の長距離回線やノイズの進入が多発する回線でも安定した通信品質を確保できる。伝送速度は最大 960kbps（上り下り対称型）。

なお、Yahoo! BB では、NTT 局舎からの距離や回線の品質等により ADSL が開通しない、または速度が出ないユーザーへの代替サービスとして Reach DSL を提供しており、現段階では直接のサービス申し込みは受け付けていない。

（3/9）

Micronas、Microdrive をサポートしたプレーヤーソリューションを発表

Micronas は、IBM の Microdrive をサポートしたオーディオプレーヤー開発ソリューション「ColumbusDRIVE」を発表した。

Microdrive は IBM が開発したコンパクトフラッシュと同じインターフェースを持つ小型ハードディスクドライブ。1GB の記憶容量を持つものまで販売されている。

一般にハードディスクのように駆動系を持つメディアは、フラッシュメモリなどの記録メディアより消費電力が大きくなる。Micronas では、ColumbusDRIVE 開発ボード上に 8MB の SDRAM をバッファとして搭載した。

Microdrive は数分間分のデータを数秒でこのバッファに転送し、一旦動作を止める。バッファに新しいデータが必要になると再び動作を開始する。これにより、低消費電力を実現している。

ColumbusDRIVE は再生と録音機能を持ち、デジタルおよびアナログの入力インターフェースを備えている。汎用のコネクタを備えているため、コンパクトフラッシュ等と組み合わせて利用することもできる。

MP3、WMA、AAC といったコーデックの他、主要な音声コーデックもサポートしている。

内部的には Micronas の MP3 プレーヤーデザインプラットフォームを拡張したものとなり、ARM7RTDMI ベースの Zenon プロセッサーとオーディオコーデックの MASF ファミリーから構成されている。

そのため、ColumbusDRIVE アプリケーション・ボードの開発には ARM の標準開発環境しか必要なく、Micronas から特別なツールなどは提供されない。この ColumbusDRIVE アプリケーション・ボードは開発者向けに 1000 ドル以下で提供される。

（3/8）

三洋電機、ML 記録対応 CD-R/RW ドライブ用チップセットを発表

三洋電機は、業界で初めて ML 記録方式に対応した CD-R/RW ドライブ用ならびに、COMBO（CD-R/RW & DVD）ドライブ用のチップセットを開発したと発表した。

ML（MultiLevel Recording）記録は、米 Calimetrics 社が開発した多値記録により、現行の CD-ROM の約 3 倍、2G バイトの記録容量を可能にする記録再生技術。

従来の CD-ROM がピットの有無で１ビットを表現しているのに対し、ML は記録マークの大きさを 8 種類に変えて記録し、8 レベルの異なる反射率として読み出す多値記録再生技術を採用。これにより 1 つの記録マークで 3 ビット分の情報を表わすことができ、さらに誤り訂正符号方式を工夫することで、CD-ROM の約 3 倍の容量を実現する。

現在の CD-R/RW ドライブの光学系や機械系などの部品をそのまま使うことができるため、低コストで大容量記録を実現することができると注目を集めている。

今回、三洋電機が開発したチップセットの構成は、ML の記録／再生処理を行う LC898050、CD-R/RW ドライブ用信号処理を行う LC898040 と COMBO ドライブ用信号処理を行う LC898010。

LC898050 の記録／再生速度（ディスク回転速度）は CD-ROM の 12 倍速相当、データレートは CD-ROM の 36 倍速相当(5.4MB/s)。データレートに比べて、ディスクの回転数を抑えることができるため、ディスク駆動系のコストを抑えることができる。

LC898040 と LC898010 には、三洋電機の従来の CD-R/RW ドライブ用信号処理 LSI と同様に、記録時のエラーを回避する BURN-Proof 機能、最適な記録制御によって記録品質を高めるライトストラテジ機能や、ATAPI インタフェースなどを搭載。

LC898050 と LC898040 を組み合わせることにより、ML 記録方式対応の CD-R/RW ドライブが、また、LC898050 と LC898010 の使用により、ML 記録方式対応の COMBO ドライブが実現できる。

いずれのチップも 2002 年 4 月からサンプル出荷開始、サンプル価格は LC898050 が 4,000 円、他は 3,000 円。量産出荷予定は LC898040 と LC898010 が 2002 年第 2 四半期となっている。

なお、Calimetrics 社は TDK、三菱化学、三洋電機、シナノケンシ、松下寿電子工業、ヤマハといったメーカーと提携。各社は Calimetrics 社からライセンスを受け、TDK が ML CD-R ディスク、三菱化学が ML CD-RW ディスク、三洋電機が LSI とドライブ、シナノケンシ、松下寿電子工業、ヤマハが ML CD-R/RW ドライブといった形で製品開発を進行中となっている。

（3/8）

東急、ISP 事業を CATV 子会社へ統合

東京急行電鉄とイッツ・コミュニケーションズ（以下 iTSCOM、旧東急ケーブルテレビジョン）は、東京急行電鉄が行っているイン

ターネットサービスプロバイダー事業（246-net）を iTSCOM に営業譲渡し、事業統合することに合意したと発表した。

246-net は、東急沿線を中心とした首都圏エリアで、個人ユーザー、法人ユーザー、マンション等をターゲットに、ダイヤルアップ接続サービスから光ファイバーを活用したブロードバンドサービスまで、またデータセンター事業や無線インターネット事業者と連携したサービスなど多様な商品と幅広いサービスを展開している。

一方、iTSCOM は CATV 業界のリーディングカンパニーとして、東急沿線エリアでのケーブル網を使ったブロードバンドインターネットサービス（iTSCOM.net）に取り組んでいる。

2002 年 4 月 1 日以降は、246-net のすべてのサービスを iTSCOM が継承し運営していく。これにより、iTSCOM は現エリアに加え、エリア外のユーザーに対しても多様なインターネットサービスの提供が可能となる。

統合の結果、iTSCOM のインターネットサービスは、ケーブルインターネット加入者約 6 万世帯、246-net 個人ユーザー約 2 万 2 千人、法人・ホテル約 270 契約、マンション約 2 千 2 百戸という加入者を保有することとなる予定。

当面はサービス内容や契約に変更はなく、既存のサービスが並行して提供されることになるが、2002 年 10 月を目処に同一の契約・サービス形態として利用できるよう、商品整備を進めて行くとしている。

(3/7)

有線ブロード、マンション向け FTTH サービスでリクルートコスモスと提携

米リクルートコスモスと有線ブロードネットワークスは、新築分譲マンションにおける光ファイバーを利用した超高速インターネット接続サービスの提供に関して提携したと発表した。

具体的には、リクルートコスモスが展開する首都圏新築分譲マンションに対し、有線ブロードが回線局からマンションまで最大 1Gbps の光ファイバー網を引き込み、各住戸に最大 100Mbps の超高速インターネット通信網を整備した上で、約 5,000 のブロードバンドコンテンツ（一部有料）や IP 電話などの各種ブロードバンドサービスを入居世帯向けに提供していくことで合意したもの。

回線提供速度は上り下り共に最大 100Mbps。同時接続端末数がホームでは 5 台、SOHO では 10 台となっているほかにはサービス内容に違いはない。

サービス導入第一号物件は、2002 年 3 月下旬販売開始予定の都市型タワーマンション「横濱ディアタワー」（横浜市中区山下町・総戸数 264 戸）。

今後の展開については物件毎の規模や地域特性を考慮した上 随時採用することとしている。

なお、リクルートコスモスは全新築マンションのブロードバンド対応実現に向けて、2001 年 11 月より NTT 東日本グループとも提携している。

(3/7)

リムーバブル HDD の標準化を目指すコンソーシアムが設立

キヤノン、富士通、日立製作所、フェニックス テクノロジーズ、パイオニア、三洋電機、シャープ、日本ビクターの 8 社は、「iVDR（Information Versatile Disk for Removable usage）ハードディスクドライブ・コンソーシアム（略称:iVDR コンソーシアム）」を 2002 年 3 月 5 日に設立したと発表した。

「iVDR コンソーシアム」は、リムーバブルハードディスクドライブを中心とした、AV 機器から PC まで幅広く対応する次世代大容量データプラットホームの標準化をめざし、「iVDR」規格策定作業と、その普及を目的としている。

具体的には、2.5 型や 1.8 型などの小型ハードディスクドライブを用いて AV 機器から PC まで高い互換性と可搬性を実現するためのインタフェース、ファイルシステム、アプリケーション等の技術規格検討を進めていく。

8 社はコンソーシアムの設立に先立ち、2.5 型ハードディスクドライブをベースとした基本技術仕様の検討をまとめている。

それによると、サイズは 130mm × 80mm × 12.7mm、900G 以上の耐衝撃性（非動作時）を確保し、コネクタは挿抜回数 10,000 回に耐える 50 ピンの iVDR 用コネクタを採用、インターフェースコマンドは ATA 標準コマンド、AV 拡張コマンドを用意、オプションとしてセキュア拡張コマンドも準備している。

iVDR は、ハードディスクドライブの持つ小型大容量、高速アクセス性能を活かし、AV 機器において利用される映像コンテンツ等のあらゆるデータを取り扱うデータプラットホームを目指し、ホームサーバ、ビデオレコーダ、車載 AV 機器や PC など、幅広い分野でデータの共有を提供する新しいメディアとして位置づけている。

また、コンテンツ保護セキュリティ機能を実装しないノーマルタイプに加え、利用用途によってコンテンツ保護セキュリティ機能を実装したセキュアタイプの技術仕様の検討も行っていくとしている。

コンソーシアムでは、今後、関連機器メーカー、コンテンツホルダ、放送/通信業界などからの参加を呼びかけ、広く参加企業の募集を行っていくとしている。

(3/7)

経産省、電子商取引に関するパブリックコメントを募集

経済産業省は、電子商取引に関する様々な法的問題点について、民法をはじめとする現行法規がどのように適用されるのか、その解釈を示す「電子商取引等に関する準則」の取りまとめに当たり、パブリックコメントの募集を開始した。意見募集期間は 2002 年 3 月 5 日から 19 日まで。

これは、産業構造審議会情報経済分科会ルール整備小委員会が策定した「電子商取引等に関する準則（案）」について意見を募集するもの。

この準則（案）は、電子商取引等に関する様々な法的問題点について、民法をはじめとする関係する法律がどのように適用されるの

か、その解釈を示すもの。同時にサイト上で公開されている。

内容は EC に関して、具体的に契約の成立時期や「なりすまし」の責任の所在などについて解釈が示されている。

音楽配信に関してもプログラムなどと同じ情報財として返品・返金が成立する場合を述べている。さらに PtoP ファイル交換ソフトによる著作権法違反についても解釈が示されている。

（3/6）

TTNet、東京電力の回線を利用した FTTH サービスを発表

東京通信ネットワーク（略称：TTNet）は、インターネット接続サービス「東京電話インターネット」の常時接続プラン“コネクト 24”に、ユーザー宅まで光ファイバーを引き込みアクセス回線に利用するサービスを追加し、2002 年 3 月 29 日から申込を受付開始すると発表した。

サービス名称は「コネクト 24・光 100M（TEPCO ひかり・ホーム）」と、SOHO 向けの「コネクト 24・光 100M（TEPCO ひかり・SOHO）」。これは、東京電力が提供する ISP 向け光ファイバーをアクセス回線として利用するサービスの第一号となる。

回線提供速度は上り下り共に最大 100Mbps。同時接続端末数がホームでは 5 台、SOHO では 10 台となっているほかにはサービス内容に違いはない。

サービス料金は月額費用が基本料金としてホームで 8,980 円、SOHO で 16,480 円。それぞれに回線終端装置使用料として 900 円が加わる。

初期費用は回線工事費が 27,000 円、開通手数料が 2,000 円で、これは共通となっている。

サービス提供開始時期は 2002 年 3 月 29 日（金）から受付を開始。

サービス提供エリアはスタート時で目黒区、大田区、世田谷区の一部。
2002 年度上期に品川区、渋谷区、新宿区、中野区、杉並区、豊島区、荒川区、板橋区、練馬区、武蔵野市、三鷹市　の一部、 2002 年度下期で北区、江戸川区、文京区、墨田区、江東区、足立区、葛飾区、台東区、千代田区、中央区、港区　の一部が予定されている。

なお、サービス開始記念キャンペーンとして、2002 年 6 月末日迄に申し込みを行うと開通手数料の 2,000 円が無料となる。

（3/6）

カシオ、携帯機器に最適な燃料電池を発表

カシオ計算機は、独自の方式による携帯機器に利用可能な「小型高性能燃料電池」の研究開発に成功したと発表した。

今回、開発されたのは、超小型高性能の改質型燃料電池と呼ばれるもの。燃料であるメタノール等のアルコールを改質器により水素を生成し、水素から発電セルを通して電気エネルギーを取り出す方式を採用している。

特徴としては、メタノールを水素ガスに変換する独自のマイクロリアクターと呼ばれる改質器をシリコンウェハー上に形成したことで、超小型化を実現すると共に水素ガスを 98%以上の変換効率で生成する事に世界で初めて成功している。
生成した水素と酸素を反応させる発電セルは、面積あたりの発電能力が極めて高く小型で大きな電力が得られるとしている。

超小型高性能であることで、ノート PC・デジタルカメラ・PDA・ポケットテレビ等の幅広い分野に応用が見込まれる。
例えばノート PC 等の電源にこの燃料電池方式を適用し、燃料にメタノールを使用した場合、現在使われているリチウムイオン 2 次電池方式と比較すると、半分の重量で約 4 倍の電池寿命が実現可能となるという。

カシオ計算機では、さらなる性能向上、機器への応用、実用性に対する研究開発を進め、2004 年の実用化を目指すとしている。

（3/6）

Midbar、日本で最初のコピーコントロール CD に自社技術が採用されたと発表

Midbar は、日本で販売される最初のコピー防止 CD100 万枚について同社のコピーコントロール技術「Cactus Data Shield（CDS）」が採用されたと発表した。

採用されたのは 2002 年 1 月に発表されたばかりの新バージョン「CDS-200.0.4」。CD パッケージの表にそれと分かるような特別なラベルが貼られる予定としている。

また、2002 年上半期にかけて、日本の複数のレーベルおよび CD 製造業者から「Cactus Data Shield」技術を採用した CD が販売される予定であるとしている。

（3/5）

ソニー、OpenMG Jukebox をアップデート

ソニーは、統合オーディオソフトウェア「OpenMG Jukebox Version 2.2」をアップデートするプログラムソフトウェアを公開した。ファイルサイズは 5,614 KB。

今回のアップデートにより、曲の Divide 時に曲が消失してしまう不具合、同じ曲名のファイルをリストアした際に曲が消失してしまう不具合、Net MD 内の曲を「削除前にチェックイン」するとき、グループ名を含んでいるとチェックインされずに権利だけ消失してしまう不具合の解決が図られている。

さらに、『MUSIC NAVI』CD データベースによる「CD 情報取得機能」に対応した。これはサイバーウイング社の運用するオンラインによる音楽 CD の販売、情報検索データサービス"MUSIC NAVI"を利用したサービスで CD ドライブに挿入された音楽 CD の情報をネット経由で取得できる。

なお、アップデート対象は「OpenMG Jukebox Version 2.2」のバージョン“2.2.06.10050”以降。“2.2.01.08270”の場合は、一度“2.2.06.10050”へアップデートする必要がある。

（3/4）

リコー、PC カード・IEEE1394・小型フラッシュメモリーカードの I/F 機能を 1 チップにした LSI 発表

リコーは、PC カードコントローラと IEEE1394 コントローラを集積化した PC インターフェース LSI「Super One Chip シリーズ」の新製品として、小型フラッシュメモリーカードのインターフェース機能を搭載した「R5C590」を開発し、サンプル出荷すると発表した。

「R5C590」は、ノートブック PC や省スペース型デスクトップ PC の高機能化、小型化による基板実装の厳しい面積制約に対応するために、PC インターフェース LSI として初めて、PC カード、IEEE1394、小型フラッシュメモリーカードの 3 種類のインターフェース機能を 1 チップに搭載したもの。

パソコン本体部（PCI バス仕様 2.2 に準拠した PCI バス）に対し、PC カードインターフェース、IEEE1394 インターフェース、さらにメモリースティック、SD メモリーカード(MultiMedia Card)、スマートメディアカードといったフラッシュメモリーカードとのブリッジ機能を提供する。

PC カードインターフェースは 2 スロット、IEEE1394 インターフェースは 2 ポートをサポート。フラッシュメモリーカードは、PCMCIA で規格化検討されているカードベイ規格に準拠したパッシブアダプターカードによるインターフェース方式を採用している。

メモリースティックは「Memory Stick Standard Format Specification Version 1.3」準拠、SD メモリーカードは「SD Memory Card Specification Version 1.0」準拠で MultiMedia Card（MMC）の動作も可能、スマートメディアは「Smart Media Standard 2000」に準拠となっている。

パッケージは CSP 272 ピンと BGA272 ピンが用意され、サンプル価格は 3,000 円。

(3/4)

総務省、1 月末のインターネット利用者数を発表

総務省は、2002 年 1 月末の時点でのインターネット接続サービスの利用者数速報を発表した。

いわゆるブロードバンドの利用者数としては、CATV インターネットが 133.4 万人、DSL が 1,787,598 人、FTTH が 12,337 人となっている。

今回から CATV インターネットサービス利用者数を月次で集計するようになったほか、新たに FTTH が加わった。これにより、ブロードバンドインフラの普及具合が媒体別に容易に比較できる。

(3/2)

エイベックス、音楽配信サービスを値下げ

エイベックスは、インターネット、KIOSK 端末、携帯電話（PHS）で展開している音楽配信サービスの価格を 2001 年 4 月 1 日（月）より順次値下げし、1 曲あたり 200 円で提供していくと発表した。

エイベックスでは、2000 年 4 月よりインターネットを利用した有料音楽配信サービス「@MUSIC」をスタート、同年 8 月には KIOSK 端末向けに、さらに 2001 年 1 月からは PHS 向けにサービスを拡大してきた。
その料金体系はインターネット及び携帯電話向けには 1 曲あたり 350 円で、KIOSK 端末向けには 400 円と割高感があり、サービス開始より 2 年が経過するのを機に、新たな価格体系でサービスの充実を図るもの。

一方で、2002 年 3 月 13 日（水）にリリースする BoA のマキシシングルを皮切りに、コピーコントロール機能を付加した CD を随時発売していくことを公表。今回の価格改定がユーザーの利便性を維持するための一環として実施するものとも述べている。

(3/1)

ソニー、アイワを完全子会社化

ソニーとアイワは、株式交換によりソニーがアイワを完全子会社（100%子会社化）とすることを決議し、株式交換覚書を締結したと発表した。

正式には、2002 年 4 月下旬に株式交換契約書を締結、6 月中旬開催予定のアイワ定時株主総会において承認を得た上で、2002 年 10 月 1 日を株式交換の日とする予定。

株式交換比率はアイワの普通株式 1 株に対して、ソニーの普通株式 0.049 株。

なお、完全子会社化に先立ち、アイワは連結固定費を現在の約 3 分の 1 程度に圧縮するなど一段の経営改革を進める計画。
具体的には、アイワの人員を現在の 3 分の 2 以下に削減、ソニーグループにおける新しいアイワビジネスに必要な開発・設計を主たる機能とし、また、国内外の生産および販売体制は、ソニーの設計・生産プラットフォーム（EMCS）および販売プラットフォームと統合した最適な体制を地域ごとに構築することになる。

元々、ソニーはアイワの発行株式の 60%を保有しているが、アイワの経営再建に際し将来に向けた成長の原動力となるべきデジタル技術、ネットワーク技術等が不足しており、現在の独立経営では、今後アイワの株主企業価値を維持し続けていくことに困難があると認識するに至り今回の措置となった。

(2/28)

エイベックス、コピーコントロール CD を発売

エイベックスは、2002 年 3 月 13 日（水）にリリースする BoA のマキシシングル、及び、同 3 月 20 日（水）にリリースする Do As Infinity のアルバム等に、コピーコントロール機能を付加して発売すると発表した。

コピーコントロール技術として採用したのはイスラエルの Midbar Tech 社が開発した Cactus Data Shield 方式。

通常の CD プレーヤー、DVD プレーヤーでの再生は可能となっているが、MP3 再生対応 CD プレーヤー及び CD-ROM 再生方式を採用するカーオーディオ（CD-ROM ドライブを利用したカーナビ等と一体化されたもの等）

では一部再生されない機種もある。

また、PC 上では通常のオーディオトラックを CD-ROM ドライブで再生することはできない。ただし、Windows 用音楽再生専用のアプリケーション・ソフトが含まれており、これによりエクストラ・トラックに収録されたオーディオを再生することが可能となっている。現段階では Macintosh パソコンには非対応となっている。

録音に関する制限は以下の通り。

アナログでの録音（カセットテープ等）	○
MD へのデジタルコピー	○
PC のハードディスクへのリッピング	×
PC 上での CD-R へのデジタルコピー	×
MP3 ファイルなどへのエンコーディング	×

なお、エイベックスでは、違法コピー防止対策に積極的に取り組み、コピーコントロール技術の検証を進め、より信頼性の高いコピーコントロール CD の発売を今後も継続していくとしている。

（2/28）

PFU、コンテンツ配信ビジネスへ本格展開

PFU は、ブロードバンドネットワークを活用したコンテンツ配信ビジネスの企画・立案からシステムの導入・運用までをトータルに支援する「コンテンツ配信インテグレーションサービス」を発表した。

このサービスは、PFU がこれまで構築してきた様々なコンテンツ配信システムの実績を元にトータルなソリューションとして立ち上げるもの。強化点として以下の 2 点を挙げている。

・ビジネスプロデューサーによるビジネス企画支援サービス

・ソリューションコア「iPushSERVE」の体系化と高信頼システムの構築

ソリューションコア「iPushSERVE」は Solaris、Linux、Windows などのオープンプラットフォーム上で動作することを特徴とし、許諾情報を許にしたコンテンツの管理、配信の効率化を図るコンテンツ配置管理、配信状況を監視するストリーミングモニタといった機能が提供される。

また、RealSystem (RealNetworks)、Windows Media Technologies (Microsoft)など他社製品と「iPushSERVE」との組み合わせも柔軟に対応する。その対象はこれらストリーミング配信エンジンだけでなく、ストリーミング配信サーバ、キャッシュサーバ、WEB アプリケーションサーバ、ストレージ、データベースなど多岐に渡る。

システム構築事例としては携帯電話への音楽配信／インターネット音楽販売／KIOSK 端末での音楽販売／ブロードバンドストリーミング配信といった商用コンテンツ配信システム、保守メンテナンス要員の教育向け動画マニュアルの広域配布／多拠点緊急連絡／出版物の広域配信／CM コンテンツの多拠点配信といった企業向けコンテンツ配信システムを想定しており、今後 3 年間で 200 億円を販売目標としている。

（2/27）

米 RIAA、2001 年の音楽ソフト市場に関する調査結果を発表

米レコード協会(RIAA)は、米国における 2001 年の音楽ソフト市場に関する調査結果を発表、レコード会社からの出荷枚数が 10.3%と急激に減少していると発表した。

具体的な数字としては、2001 年のレコード会社から小売店やカタログ販売業者への出荷枚数は 9 億 6,858 万枚、前年の 10 億 800 万枚に比べて 10.3%減少。金額ベースでも 2001 年の音楽ソフトの売上高は 137 億ドルで、前年の 143 億ドルに比べて 4.1%減少している。

この減少について RIAA では、9 月の同時多発テロと並んでオンラインファイル交換と CD-R へのコピーを要因として挙げている。

RIAA から委託を受けた Peter Hart Research Associates が 12 歳から 54 歳までの 2,225 人の音楽ファンを対象に行った調査に依れば、その内の 23%が音楽を無料でダウンロードしたりコピーしたりできるため、あまり音楽を買わなくなったと答えている。

また、50%以上が無料でダウンロードした楽曲を MP3 プレーヤーや CD-R にコピーしたことがあり、この数字は 1999 年の 14%から急速に増えている。

さらに、その間、CD-R の所有率も 14%から 5 人中 2 人と 3 倍近くになっており、その影響は無視できないものになっているとしている。

（2/26）

シャープ、ポータブル AV プレーヤーの発売を延期

シャープは、ポータブル AV プレーヤー「MT-AV1」の発売日を 2002 年 3 月 15 日に延期すると発表した。

MT-AV1 は、3 型バックライト付きカラー TFT 液晶を搭載し、MPEG4 準拠の映像と MP3 準拠または G.726 準拠の音声を再生することができるポータブル AV プレーヤー。

当初、2002 年 2 月 23 日発売予定と発表されていた。

（2/26）

ケンウッド、Bluetooth 搭載ヘッドホン参考出展

ケンウッドは、2002 年 2 月 27 日から開催される Bluetooth & PAN 展に AV Profile を使用した音楽転送デモンストレーションシステムとして Bluetooth 搭載ヘッドホンシステムを出展すると発表した。

この Bluetooth 搭載ヘッドホンシステムは、最新の AV Profile（2002 年 2 月 1 日時点）を実機で検証する為に開発されたもの。

Bluetooth では、使用するアプリケーション毎に、機器間の通信の互換性（相互接続性）を保証するためにプロファイルと呼ばれる通信ルールが規格化されている。

当初は 13 種類のプロファイルが設定されていたが、Bluetooth SIG ではさらに新プロファイルの策定が進められており、AV Profile はその１つとして、最もビジネスドメインに重要であると期待されている。

今回の Bluetooth 搭載ヘッドホンの製品イメージとしては、ポータブル MD や CD へ応用したシステム、あるいは PC デスク等に組み込むことにより PC でインターネットにアクセスしながら音楽を聴くといったものを想定している。

また、開発においては、Bluetooth 関連技術はもとより小型化、軽量化、低消費電力化など携帯電話に通じる技術蓄積が必要であると技術の優位性をアピールしている。
さらに実際の製品化においては、必須のオーディオコーデックである SBC(Sub Band Codec)以外に、各種の圧縮オーディオフォーマットに対応できるシステム作りが要求されるとしている。

(2/25)

米 IBM、デジタルメディアの配信・管理ソリューションを発表

米 IBM は、動画や音声、画像といったデジタルメディアの配信・管理を行うすべての企業をサポートする IBM の e-Business ソリューションで構成されるオープンテクノロジーフレームワーク「Digital Media Factory」を発表した。

Digital Media Factory は、IBM およびサードパーティ製の技術および製品を組み合わせた、サーバ、ワークステーション、ストレージ、ミドルウェア、アプリケーション、そしてサービスで構成される。

IBM 製品で言えば、ワークステーションに「IntelliStation」、メディア管理システムに「Electronic Media Management System」、アプリケーションサーバに「WebSphere Commerce For Digital Media」、サーバに「IBM eServer」、ストレージに「DB2 Universal Database」をベースにした「IBM Content Manager」や「Total Storage」ソリューション、サービスとして「IBM Global Services」などが含まれることになる。

IBM ではデジタルメディア戦略として、先進的な技術やサービス、アプリケーションを提供している複数の企業と協力関係を築いていくとしている。
その内のひとつとして、Liquid Audio ではミュージックプレーヤーソフトの次期バージョンで EMMS をサポートするとしている。

(2/25)

EMD Magazine　第 15 号
発行　2002 年 3 月 11 日
発行所　音楽配信関連情報サービス
責任編集　宮腰 温
レイアウト　株式会社アイビルダーズ